

平成 29 年 9 月 5 日
日本原燃株式会社

原子燃料サイクル事業の現在の状況について

1. ウラン濃縮事業

(1) 運転状況

RE-2A 初期導入(75tSWU/年)生産運転中。

(2) ウラン濃縮工場 補助建屋(管理区域外)における火災の発生

7 月 7 日、13 時 37 分、ウラン濃縮工場の補助建屋(管理区域外)において、当社社員がディーゼル発電機 A 号機の法令点検における試運転を行っていたところ、同発電機制御盤から発火を確認した。

その後、公設消防が現場を確認した結果、14 時 02 分に火災と判断され、同時刻に鎮火された。

本事象による周辺環境への影響はなく、負傷者はいない。

原因については、電磁接触器の樹脂部品の劣化により連続通電状態が生じ、加熱焼損したものと考えられ、現在報告書の取り纏めを行っているところ。

2. 低レベル放射性廃棄物埋設事業

(1) 低レベル放射性廃棄物埋設センターへの廃棄体受入れ状況

受入れ日	搬出側施設名	数量
平成 29 年 5 月 21 日～ 5 月 23 日	関西電力(株) 高浜発電所	1,520 本(2号埋設)
合計	1,520 本	1号埋設対象廃棄体 0 本 2号埋設対象廃棄体 1,520 本

(2) 低レベル放射性廃棄物受入れ・埋設実績

	受入れ本数	埋設本数
平成 29 年 4 月から 平成 29 年 8 月末までの実績	1号埋設設備 0 本 2号埋設設備 3,016 本	0 本 3,000 本
平成 29 年 4 月から平成 29 年 8 月末までの合計	3,016 本	3,000 本

(3) 平成 29 年度 第 3 回、第 4 回及び第 5 回低レベル放射性廃棄物の受入れの延期

6 月に予定されていた以下の低レベル放射性廃棄物の受け入れについては、2号埋設クレーンの走行用レールの継目部にずれ等が確認されたことから、その設備の原因究明、補修等のため延期することとなった。

- ・第 3 回中部電力(株)浜岡原子力発電所分 640 本(輸送容器 80 個)
- ・第 4 回中部電力(株)浜岡原子力発電所分 1,248 本(輸送容器 156 個)
- ・第 5 回九州電力(株)玄海原子力発電所分 480 本(輸送容器 60 個)
及び北陸電力(株)志賀原子力発電所分 480 本(輸送容器 60 個)

(4) 低レベル放射性廃棄物搬出検査装置(搬出元)の放射能測定プログラムの不具合

平成 29 年 8 月 4 日、中国電力(株)島根原子力発電所、四国電力(株)伊方発電所、北陸電力(株)志賀原子力発電所、日本原子力発電(株)敦賀発電所より、低レベル放射性廃棄物搬出検査装置(搬出元)の放射能測定プログラム^{※1}に不具合^{※2}があり、当社が当該電力から過去に受け入れた廃棄体 4,272 体の放射能濃度が適切に評価されていなかったと連絡を受けた。

当該廃棄体の放射エネルギーについては、表面線量当量率^{※3}と放射エネルギーの関連性から保守的に推定し、埋設施設の放射エネルギーが管理基準を下回る見通しを得ている。

なお、当該廃棄体の表面線量当量率は最大 1.3mSv/h であり、既事業変更許可値である 10mSv/h(1 体あたりの廃棄体最大値)を十分に 下回っていることから周辺への影響はないものと考えられる。

電力からの最終報告を受け、適切に対応していく。

※1 放射能測定プログラム:原子力発電所から廃棄体を搬出する際に搬出検査装置において廃棄体の放射エネルギーを測定しており、その検査装置の計算機内のプログラムのこと。

※2 放射能測定プログラムの不具合:測定したデータが保存されないままプログラムが進行し、一部の廃棄体の放射エネルギーが少なめに評価された状態になっていること。

※3 表面線量当量率:廃棄体表面の単位時間あたりの放射線量

3. 高レベル放射性廃棄物管理事業

(1) 返還ガラス固化体受入れ・管理実績

	受入れ本数	管理本数
平成 29 年 4 月から平成 29 年 8 月末までの合計	0 本	0 本

(2) 廃棄物管理施設 ガラス固化体貯蔵建屋 下部プレナム等に係る調査等の実施計画に基づく報告について(第 1 貯蔵区域にかかる調査結果および評価と最終報告)

原子力規制委員会からの指示文書「日本原燃株式会社廃棄物管理施設ガラス固化体貯蔵建屋の下部プレナム等における変色部や錆の発生に係る調査について(指示)」(2015 年 9 月 2 日付)に基づき、第 1 貯蔵区域の調査結果報告(経過報告)および下部プレナム等に係る最終報告を 6 月 30 日、同委員会に提出した。

第 1 貯蔵区域の調査結果と今後の下部プレナム中長期対応に関する概要は、以下のとおり。

第 1 貯蔵区域の下部プレナム内の一部設備の変色部の原因は、他の第 2、3、4 貯蔵区域と同様に、大気浮遊じんに伴った外部由来の酸化鉄が付着したものであると考えられ、ガラス固化体貯蔵設備の安全機能に影響を及ぼすおそれはなく、健全性は確保されていると評価した。

今後は、下部プレナムの中長期健全性を確認するため、各貯蔵区域の現場調査完了から 5 年以内を目安に観察装置により各貯蔵区域の観察を行う。観察の結果、保修等の必要が生じた場合には、当該貯蔵区域のガラス固化体を移動した後に下部プレナム部に入域し、適切な処置を施すこととしている。

なお、平成 29 年 8 月 2 日の原子力規制委員会においても審議され、了承された。

4. 再処理事業

(1) 工事の進捗状況(平成 29 年 8 月末現在)

再処理施設本体工事進捗率 約 99%

(2) アクティブ試験の進捗率(平成 29 年 8 月末現在)

総合進捗率 約 96%

(3) 使用済燃料受入れ量、再処理量

		受 入 れ 量		再処理量	
平成 29 年 4 月から	PWR	0 体	0 トン U	0 体	0 トン U
平成 29 年 8 月末までの実績	BWR	0 体	0 トン U	0 体	0 トン U
平成 29 年 4 月から平成 29 年 8 月末までの合計		0 体	0 トン U	0 体	0 トン U

5. MOX 燃料加工事業

(1) 工事の進捗状況(平成 29 年 8 月末現在)

工事進捗率 約 11.8%

以 上

「詳細については、当社ホームページから確認することができます。(<http://www.jnfl.co.jp/>)」